

千原光雄：カナダの Bamfield 臨海実験所 Mitsuo CHIHARA：Bamfield Marine Station in Vancouver Island, British Columbia, Canada

カナダにこの国で初めての臨海実験所が太平洋岸にできたと 1972 年に聞いた。かつて臨海実験所に勤務し、また数年前に 1 年程カナダ太平洋沿岸で暮したことのある筆者はいつかこの実験所に行って見たいと思っていた。希望は図らずも昨年の夏に実現した。

この臨海実験所は正式の名を Bamfield Marine Station といい、バンクーバー島の太平洋側にある Barkley Sound の Bamfield Inlet に面して建てられ、カナダ西部五大学の海洋生物学会 (Western Canadian Universities Marine Biological Society; WCUMBS) により運営される。北アメリカの太平洋岸は北はアラスカから南はメキシコにいたる長い海岸線をもち、海藻、海産動物ともに豊富で、海洋生物の研究や教育に秀れた場を提供している。アメリカにはよく知られるワシントン大学のフライディハーバー臨海実験所、カリフォルニア大学のボデガ臨海実験所、スタンフォード大学のホプキンス臨海実験所、カリフォルニア大学のスクリップス研究所など、秀れた設備をもつ施設が北から南にかけて並ぶが、カナダ沿岸にはそのような施設がなかった。このことからカナダ西部五大学 (サイモンフレーザー大学、アルバータ大学、カルガリー大学、ブリティッシュコロンビア大学およびビクトリア大学) の研究者達がつくる上記海洋生物学会の努力により 1972 年に Bamfield 臨海実験所の開設を見るにいたった。

Bamfield は約 70 世帯、人口約 250 人の小さな部落で、その主産業は漁業に依存する。なかなか風光明媚な所で、海産生物は頗る豊富である。付近に生育する海藻についてはブリティッシュコロンビア大学の SCAGEL 教授によるリスト (1973) があり、それによると緑藻 32 種、褐藻 59 種、紅藻 193 種、合計 284 種の生育が知られる。特に褐藻コンブ目植物に恵まれ、*Agarum*, *Alaria Costaria*, *Cymathere*, *Egregia*, *Hedophyllum*, *Laminaria*, *Lessoniopsis*, *Macrocystis*, *Nereocystis*, *Pleurophyucus*, *Postelsia*, *Pterygophora* が豊産する。さらに興味あることに、アラメ属 (*Eisenia*) も生育するという。

実験所は海底ケーブル会社の跡地にあり、その殆どの建物は取りこわされたが、鉄筋の建物は残され、内部が改装されて、これが主実験棟となっている (図-1)。実験棟の内部の配置等は図-4 のようで、この建物のほ

かに瀟洒な食堂のある建物、木造の宿泊用家屋 8 軒 (図-3)、所長官舎、魚類生理実験棟などがある。さらに目を引く建造物として “Kombu House” が主実験棟の前に立つ (図-2)。これは総体ガラス張りの海藻培養実験施設で、正面に北大の中村義輝先生の筆になる



図-1 Bamfield 臨海実験所の概観



図-2 昆布館の前に立つ SCAGEL 教授と DRUEHL 博士



図-3 宿泊施設

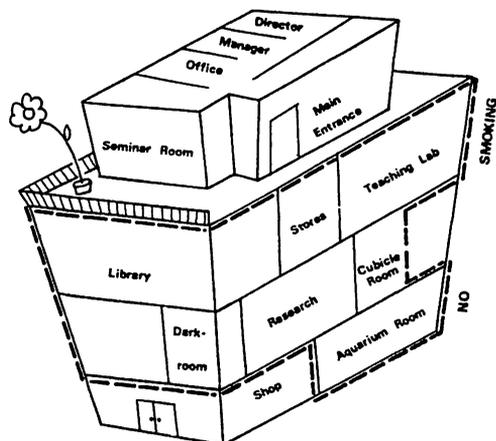


図-4 主実験棟見取図

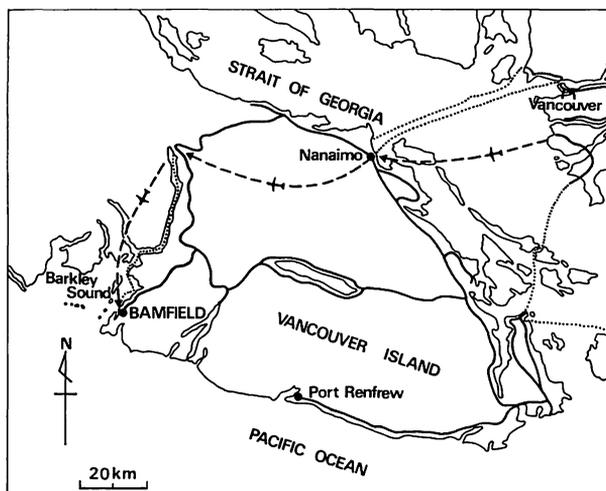


図-5 Bamfield 臨海実験所への交通

という「昆布館」の文字が見える。この実験所の設立の目的は海洋生物学の教育と研究の場の提供にあり、このことから、5~8月の夏期には4カ月間にわたりいわゆる夏学期コース(または夏期大学)が開かれる。現在は6週間または3週間を単位とするコースが8つ開講される。海産藻学のコースは6週間で5月初旬から6月にかけて開かれ、指導には前記の SCAGEL 教授やサイモンフレーザー大学の DRUEHL 博士が当たっている。筆者が訪れた時は夏であったので、幾つかのコースが開講中で、いろいろな大学からの学生達で賑っていた。話はいささか飛躍するが、その昔明治9年(1876)にアメリカ東海岸のウツホルム臨海実験所で行われたハーバード大学主催の夏期大学に参加し D. W. G. FARLOW 教授の指導を受け、わが国に初めて海藻についての学問を輸入し、また岡村金太郎先生の師でもあった矢田部良吉先生、さらに、ここ Bamfield から程遠くない Port Renfrew の Botany Bay にあったミネソタ大学臨海実験所(数年で消滅した)に明治34年 J. Tilden 教授に連れられた学生達とともに訪れ、精力的に海藻の研究(特にサンゴモの研究)を行なったわが国の初期の海藻学者遠藤吉三郎博士の話などを思い浮べた。この臨海実験所の設立に努力され

またさきの所長でもあった SCAGEL 教授は日本の藻類研究者や学生がこの施設を利用することを熱心に希望されていた。なお参考までに費用は、実験室使用料4ドル/1日(カナダドル、以下同様)、宿泊費45~90ドル/1月(個室か相部屋か、炊事施設の有無による)、食費10ドル/1日である。交通はバンクーバー市からバンクーバー島へのフェリー乗船場の Tsawwassen または Horseshoe Bay まで車で約1時間、フェリー約2時間、次いで車で臨海実験所のある Bamfield まで約5時間の行程である(図-5)。Bamfield 臨海実験所の利用については、さしあたってはブリティッシュコロンビア大学植物学部の R. F. SCAGEL 教授と連絡をとられるのがよい。

今回の筆者の Bamfield 行に際しては SCAGEL 教授に多大のご配慮をいただいた。なお旅費は文部省在外研究員費によった。記して厚くお礼申し上げる。

## 文 献

SCAGEL, R. F. 1973. Marine benthic plants in the vicinity of Bamfield, Barkley Sound, British Columbia, *Syesis*, 6: 127-145.

## 学 会 録 事

本学会会員 三輪知雄氏は、去る昭和54年12月27日逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。